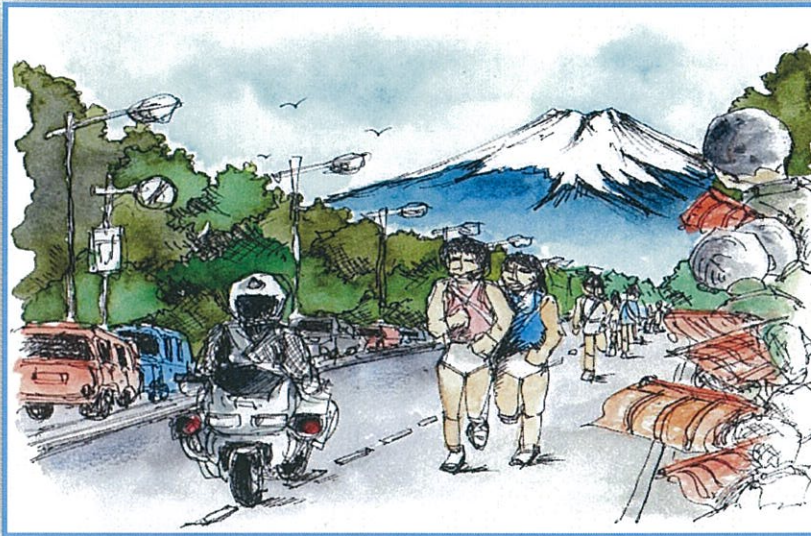




シンボルマーク公募作品

## 箱根駅伝が運ぶ茅ヶ崎の正月



富士山を背に134号線を走る選手達(イメージ) 画小林信幸さん

### 茅ヶ崎出身のランナー、平成の7人

- 富田雄也(早稲田大学) 66回10区・67回10区・69回10区
- 渡辺 聡(神奈川大学) 72回7区・73回6区・74回4区  
75回2区
- 大川智裕(神奈川大学) 73回3区・75回9区
- 辻原幸生(神奈川大学) 74回8区・75回4区・76回2区
- 竹崎重紀(法政大学) 75回8区・76回8区・77回3区
- 川崎健太(国士舘大学) 82回3区・83回9区・84回5区  
85回5区
- 石原 洸(神奈川大学) 84回10区

(66回は1990年・85回は2009年)



1991年パシフィックホテル前



1992年134号

### 箱根駅伝が始まったのは

第1回1920年(大正9)2月14日(土)15日(日)  
早稲田、慶応、明治、東京高等師範 の4大学、学生は土曜日の午前が勉強、午後1時出発小田原で日は沈み、芦ノ湖には夜の8時36分着、真っ暗であった。

### ラジオ放送が始まったのは

第29回1953年(昭和28)中継は雑音が多く録音であった。

今や正月の風物詩と言われて久しい「東京箱根間往復大学駅伝競走」。松林に囲まれた134号線を走る選手をひとめ見よう、声を掛けて応援しようと多くの人が沿道に集まって来ます。今では、応援の人達が最も多いのが茅ヶ崎と言われています。

この駅伝に平成以後、地元出身の選手が7人も走っているのをご存知でしょうか。

18年前、早稲田の10区をTOPでゴールした富田雄也さんもその一人です。



市役所で執務する富田雄也さん

富田さんに当時の話を聞いてみました。優勝したのは4年生の時最後の走り。まさに有終の美を飾った訳ですが、それまでの3年間には襷を継げなかった一斉繰上げや直前になってのメンバー交代で応援に廻ったりと苦い経験を経ての歓喜でした。

現在は母校の後輩達が鍛えた実力を思う存分に発揮できるよう毎年現場で支えておられるそうです。選手達には再び栄光の優勝ゴールを切って恩返ししてくれることを願って止みません。取材 小林智子さん 小林信幸さん

### 湘南遊歩道134号線を走ったのは

第37回1961年、往路のみ走ったが翌年第38回翌々年39回は国道1号に戻り、1964年第40回より藤沢バイパス開通で134号に復帰。

### テレビ放映開始は

第63回1987年、湘南の海が映像にのり、全国に発信されるようになると、我が街の応援の観衆が急激に増してきた。

元旦の茅ヶ崎漁港・1日は漁を休んで大漁旗を掲げ舟霊(ふなたま)にお供えをします



写真提供・赤松町 針田正道さん

漁師さんにお正月の習慣を伺いました

舟霊(ふなたま)とは舟を海の悪霊から守る神様のこと身内の娘の髪の毛、紅、麻糸、銭、サイコロを舟に埋め込みお祀りしてあります。

正月2日、初出航の時、漁港を出ると、太陽に向かって左回りに三回まわって漁場に向います。

新造船の初出航も同じことをします。

えぼし岩に祀られていた祠は漁業組合により南湖下町住吉神社境内に祀られています。

1月11日には漁業を休んで舟方たちにご馳走がふるまわれ大漁安全祈願の祭礼がおこなわれます。



シラス漁の北村等さん・漁業組合理事長の米山時晴さん・農業水産課の小澤信行さん

茅ヶ崎といったらシラスですが、そのことをお話しください。船曳網で年間120t位、あとは地引網だけど観光が殆んどだね。観光地引網は現在5店舗でやってますよ。そのうち毎日産業用で掛けるのが1つあるよ。マイワシとカタクチイワシの稚魚のことをシラスって呼ぶんだが、海水が20℃位になると何度も産卵するよ。南湖じゃ大きいほうが喜ばれるようだね。採ったらすぐに水洗いして釜で茹で上げ、風乾きさせるんだが、少し黒味を帯びてるのがシラスで、真っ白なのは漂泊すんだな、茅ヶ崎ではやらないよ。畳イワシね、手間が掛ってね高いしね、面倒だから厚くしちゃうよ、買う人は得だ。刺し網が年間6t ぐらい、刺し網って？長さ30間深さ1間カスミ網のようなものさ、漁師の1間は1.5mだよ。朝網のヒラメは美味しいよ、天然のは腹が白いが養殖のは斑点があつてね「パンダヒラメ」って呼んでるよ。他には一本釣りが2t ぐらい海草も2t ぐらいだね。貝採りは権利があるんだ、数年前まで海女さんが2人いたよ。まあ、大漁が4年続いて不漁が4~5年続く周期の繰り返しだね。今年は夏の高温でカツオもアジも来なかったね。

湘南大橋を付け替えた時の橋桁を沖に沈めて漁礁にしてあるんだが、よく魚がついてるよ。釣り舟って女性も乗れるのかな~酔わないかな~？今ではちゃんとしたトイレが付いてるよ、酔い止め薬も効くのが釣宿で売ってるし、船ではコーヒーも飲めるよ。えぼし岩への釣り客用「渡船」も毎日出ています。11月6日 取材 高橋正純さん

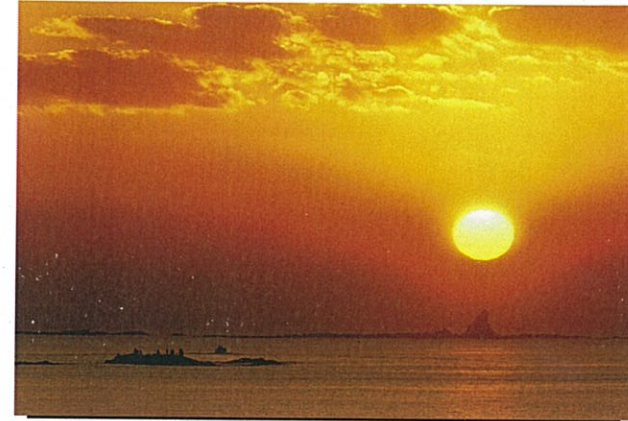


えぼし岩に残る祠跡と鳥居の跡

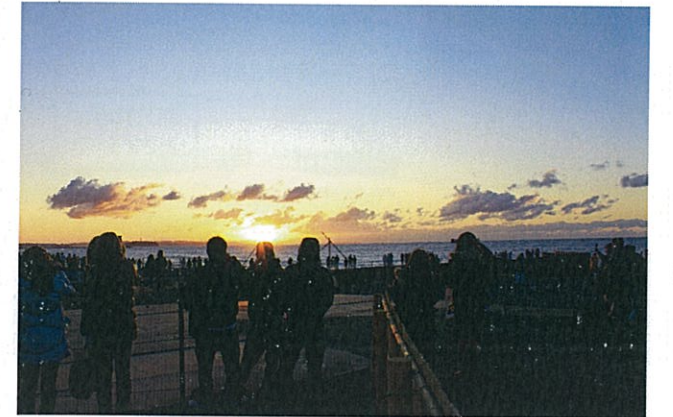
初日の出のサザンC・写真撮りに行列



元旦の朝、サザンビーチは人でいっぱい。サザンCでは輪つなぎの写真を撮る人で行列になります。



写真提供・高橋昭和さん・木村清一郎さん

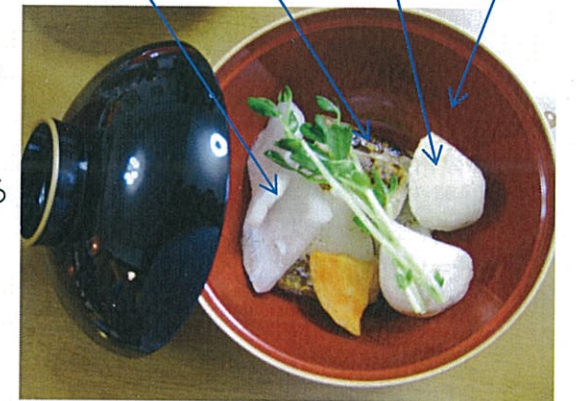


さてお正月といったら「お雑煮」茅ヶ崎も新住民が多くなると、この土地に伝わるお雑煮を知りたくなりました。そこで丸ごと探検隊が聞き取りに出勤しました。取材小林智子さん

- 南湖の板倉さん  
焼切りもち・醤油すまし汁・里芋・大根・人参・青菜・鶏肉・青のり
- 南湖の鈴木さん女性60代  
焼切りもち・醤油すまし汁・里芋・大根・しらす
- 南湖の磯屋さん70代男性  
焼切りもち・鶏肉で出し取りした塩すまし汁・里芋・大根・人参・青菜・魚類は入れないね~
- 甘沼の柿沢さん男性60代  
焼切りもち・醤油すまし汁・里芋・大根・人参・味噌味のこともある
- 甘沼の田頭さん  
焼切りもち・醤油すまし汁・里芋・大根・人参・鶏肉・青のり
- 甘沼の柿沢さん女性20代  
焼切りもち・醤油すまし汁・里芋・大根・青のり
- 甘沼の柿沢さん男性20代  
焼切りもち・醤油すまし汁・里芋・大根・鶏肉

茅ヶ崎伝統の雑煮・共通点  
大根と里芋、汁はすまし、焼切りもち  
大根、里芋は茹でおきして三が日保存、雑煮を作るのは男の仕事。

大根 焼切りもち 里芋 すまし汁



各地の雑煮



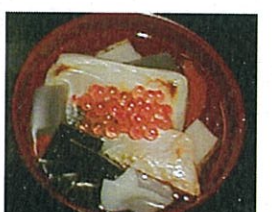
江戸の庶民  
カモの身と骨をたたいて団子にし  
焼切りもち、すまし汁



出雲・島根  
ゆであずきを甘く仕立て、茹でた丸餅を入れる



備後・福山  
塩ブイ、巻きハモ、スルメ、焼豆腐、大根、水菜、白みそ仕立て



越後長岡  
焼豆腐、こんにゃく、人参、こんにゃく、スルメ、塩引鮭、スジコ、の入ったすまし汁

サザンCから・富士山を見ながら柳島の干潟へ・ウォーキング 片道2km



干潟でバードウォッチング



誰が置いたのか木彫りの仏像



テリハノイバラの実11月13日



柳島湊跡の碑



えぼし岩にあった祠



サザンC

**参加者募集!**

茅ヶ崎市の誇る **和と洋**

弓道場と  
ボクシングのピストン堀口道場  
を訪ねてみませんか!

日時	H23年2月12日(土) 9:45~12:00
集合	茅ヶ崎市総合体育館 玄関前
対象	小学4年生以上の人 (小学生は保護者同伴)
定員	30名(申し込み制)
申し込み	1月21日~2月4日 茅ヶ崎市教育委員会 社会教育課まで 0467-82-1111(3342)

・茅ヶ崎の民話① 和合(わごう)の稲荷様(中島)・

ある年のこと、相模川が氾濫して左近稲荷(さこんいなり)が社殿ごと流されてしまいました。村人は総出で探しましたが見つかりません。

ある夜のこと夢枕で左近稲荷が、「私は中島へ帰りたい。洪水で流されて今柳島の海岸にいる。葦の中でどうにもならない。早く中島へ帰りたい。」

夜が明け村人たちに集ってもらい、話をすると一斉に近くを探しました。そして葦に絡まれ泥まみれになっている左近稲荷を発見しました。洗い清められ、村人相談の結果「左近稲荷と右近稲荷を別の所だとまた洪水のあったときどっかが流されてはかわいそうだ。」ということで、一つの社殿に祀ることに決まりました。

左近稲荷、右近稲荷は高い土地に建てられた社殿に仲良く祀られ、村人は「和合の稲荷様」というようになりました。

今では洪水が出て流されることなく村人を見守っていられます。

.....(茅ヶ崎民話の会 高橋裕子さん).....

.....ちがさき丸ごとふるさと発見博物館て何?.....

●本市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、茅ヶ崎市らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を整理して広く市民に周知する一方、それぞれを関連づけて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、本市を改めて知り、本市を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかけがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。ちがさき丸ごと博物館(愛称)は、このような考え方をもとに市民(主体)と行政が協働して運営していきます。

編集後記

新年おめでとうございます。良い年にいきましょう!

さて本号からガイド養成講座II期生の小林信幸さん、増田知子さん小林智子さんが編集員に加わり、フレッシュな感性が増強しました。アートな小林(信)さん、機動力の小林(智)さん、発想の増田さんを得て、高橋(正)を中心に池上、川合、富永でまとめました。本年もさらに良い誌面になるようがんばります。